

高等学校

平成 16 年 度

教育研究員研究報告書

総合的な学習の時間

東京都教職員研修センター

目 次

主題設定の理由	2
研究構想図	3
実践研究	
実践事例 1 体験的な学習から生徒の興味・関心を引き出す指導の実践	4
実践事例 2 学習への意欲と自信をもたせる指導の実践	9
実践事例 3 学習意欲の喚起とコミュニケーション能力の育成 ～ ものづくりと発表体験を重視した指導 ～	14
実践事例 4 自己理解に基づいた進路選択を促す指導の工夫 ～ 専門高校における計画的な進路指導を通して ～	19
まとめ	24

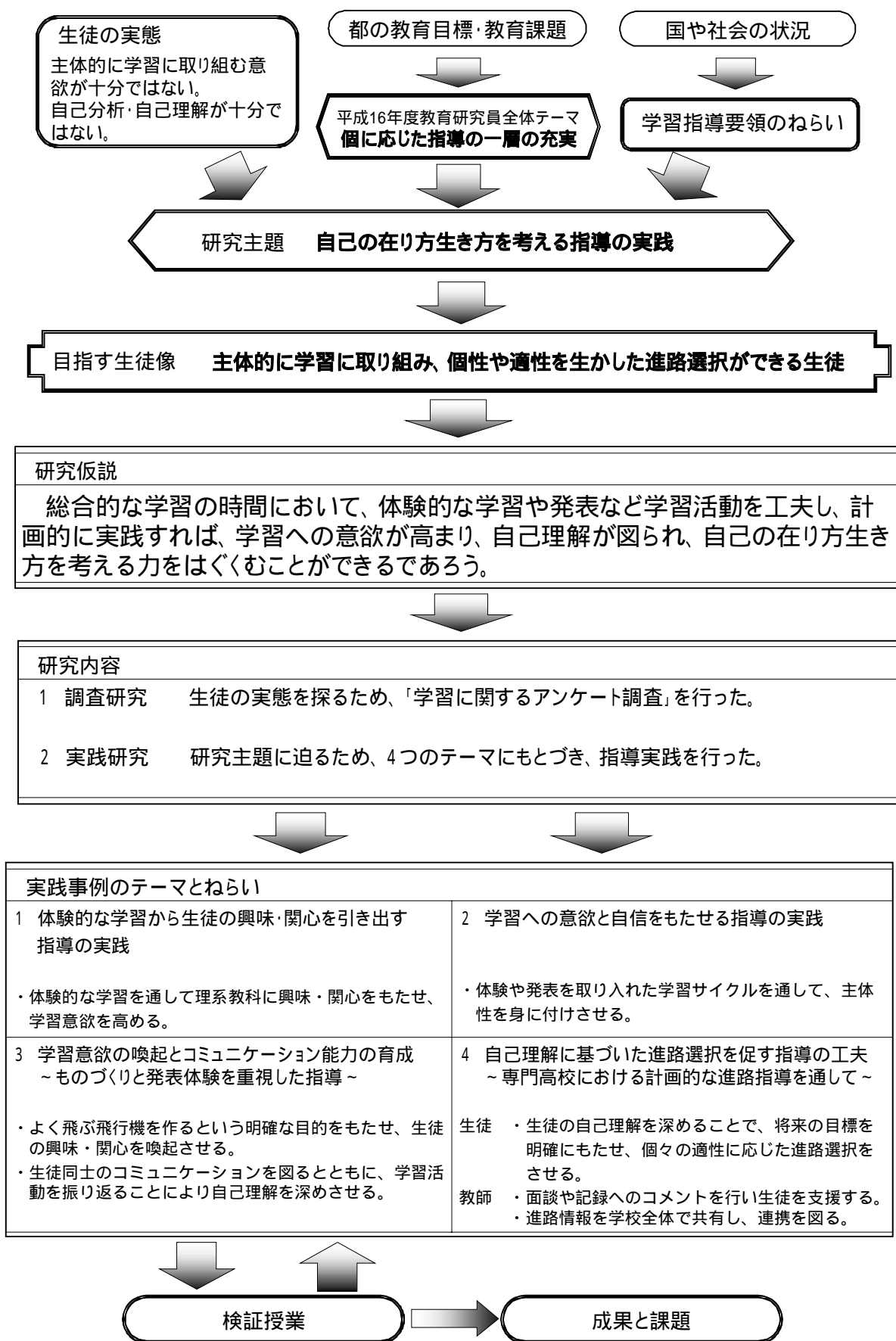
研究主題 自己の在り方生き方を考える指導の実践

主題設定の理由

高等学校では平成 15 年度から総合的な学習の時間を実施することとなった。これまで多くの学校で、自ら学び、自ら考える力などの「生きる力」をはぐくむことを目的として、授業内容や評価について様々な工夫がされている。平成 15 年 12 月の学習指導要領一部改正では、総合的な学習の時間の一層の充実として、各教科、道徳及び特別活動との相互関連付け、各学校において総合的な学習の時間の目標及び内容を定めること、同じく全体計画の作成、目標及び内容に基づき児童・生徒の学習状況に応じて教師が適切な指導を行う必要があること、などが規定された。このことは総合的な学習の時間を実施するにあたり、「生きる力」育成へのさらなる期待と受け止められる。しかし、学習指導要領では「課題研究等の履修により、総合的な学習の時間における学習活動と同様の成果が期待できる場合においては、課題研究等の履修をもって総合的な学習の時間における学習活動の一部又は全部に替えることができる。」と規定されているため、職業教育を主とする学科においては、教育課程に位置付けていない学校も多い。また、現状では学校ごとの特色や生徒の実態が異なり、設定される目標も様々であるため、総合的な学習の時間を実施している学校でも、授業形態や授業内容及び指導方法や評価方法等において、必ずしも計画的ではないなど様々な課題を抱えている。

学習指導要領では、完全学校週 5 日制の下で、各学校が「ゆとり」の中で「特色ある教育」を展開し、豊かな人間性や基礎・基本を身に付けさせ、個性を生かし、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」を培うことを基本的なねらいとしている。この「生きる力」を得ようとする基本的な姿勢として「在り方生き方を考える」ことはすべての学校に共通の課題として重要である。さらに、総合的な学習の時間のねらいに「(2) 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにすること。」とある。私たちは研究主題の設定にあたり、平成 16 年度教育研究員の全体テーマが「個に応じた指導の一層の充実」であることを踏まえ、授業実践から「自己の在り方生き方を考えることができるようにすること」というねらいにそった指導について研究することとした。「自己の在り方生き方を考える力」は、探究活動を通じて自分の置かれた状況を正しく分析・評価し、新たな課題を発見してゆく経験によりはぐくまれる。そのためには、意欲や主体性をもって学習や学校生活に取り組む態度が生徒に求められると考えた。研究を始めるにあたり、生徒の実態を探る目的で「学習に関するアンケート」調査を行った。調査実施校すべてに共通する傾向として、主体的に学習に取り組む意欲が十分ではない、自己分析、自己理解が十分ではないという結果を得た。研究部会では、この結果とそれぞれの学校の課題を踏まえ、生徒の学習意欲を高め、思考の過程を重視することから「自己の在り方生き方を考える力」をはぐくむことをねらいとする 4 つの実践を行った。体験的な学習や発表を重視し、達成感や自信から興味・関心・意欲を高めることを目指した授業の研究と、自己理解を深め進路選択について考える力を高める授業の研究及び特別活動との連携を図った学校としての組織的な取り組みについて、実践を通して生徒の「生きる力」をはぐくむ研究を行った。

研究構想図



実践研究

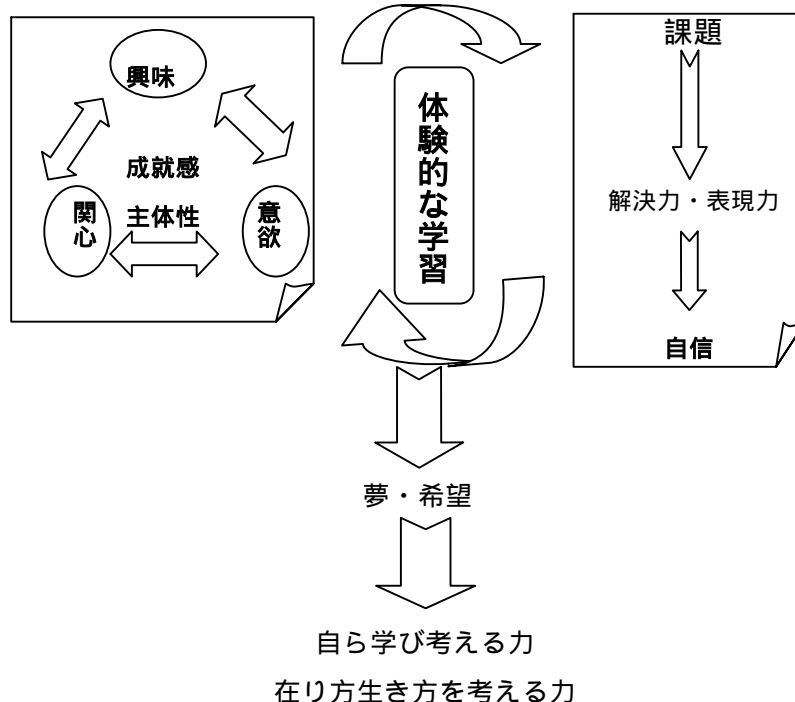
実践事例 1 テーマ「体験的な学習から生徒の興味・関心を引き出す指導の実践」

(1) テーマ設定の理由

学校生活において目標を定めることができず、学習意欲が十分でなく、自分の将来を自ら考える事ができない生徒が増加している。将来の夢や希望を具体的に考えることができず、卒業後にフリーターとなる生徒も多い。自己実現を図るためには、自分の適性や趣味、自己理解などから将来の夢や希望を見だし、自分の将来を自ら決定する力の育成が必要である。

先のアンケートより、本校の生徒は学習意欲・勉強への関心は低いが、体験的な学習や実習の必要性を感じている生徒が多い傾向が見られた。また、校内の研修会では実習や実技を伴う科目に関しては、積極的に参加する生徒が多いことが報告された。以上のような点を踏まえ、様々な体験的な学習を通して学習に興味・関心をもち、さらに学習意欲の向上を目指す指導の実践の研究を行った。

目標とする力



自ら取り組む体験的な学習を通して、興味・関心のもてる分野を見だし、学習に対する意欲を高め、さらに課題を解決する力を養うことで、自分に自信をもつことができる。このような経験を通してはぐくまれた力は、将来の進路の考察へとつながり、さらには自ら学び自ら考える力の育成を図ることとなり、自己の在り方生き方を考えることへとつながるのではないかと考え、本テーマを設定した。

(2) 研究のねらい

学習意欲・勉強への関心が低い生徒に対して、体験的な学習を通して課題解決の方法を模索しながら学習を進め、課題について幅広い知識を習得することで、教養を深め、学習意欲を高める。また、体験的な学習から感動や成就感を味わうことをきっかけに自信や希望をもたせることを目指す。

感想などを記入することから、自分の考えを相手に伝える力や自分の考えを客観的に表現する力を育成する。

(3) 研究仮説

- ア 体験的な学習により、意欲的に授業に取り組むであろう。
- イ 自己評価や発表などにより、表現力を高め、自信につながるであろう。

(4) 指導事例

ア 授業計画

(ア) 3年間の体系的な指導のねらい

- 1年次「自分を知り、高校生活に目的をもつ」
- 2年次「自分の進路について考える」
- 3年次「進路実現と社会人になる心構え」

(イ) 年間授業計画(第2学年)

4月	2学年進路意識調査	(2時間)
5月	自分の希望する進路実現のための道筋を考える	(3時間)
6月	個性について考える	(2時間)
7月	自己PR,「自己診断カルテ」 産業・職業の変化を知る	(3時間) (3時間)
9月	ガイダンス	(1時間)
	折り紙を科学する	(1時間 本時)
	ゴミを考える	(1時間)
10月	パソコンで絵を描こう(フラクタルを考える)	(2時間)
	簡単な遊具の製作	(1時間)
11月	学習の発表・準備	(3時間)
12月	進路意識調査	(3時間)
1月	制作した遊具の仕組みを考える	(1時間)
	コップからコースターを作る	(2時間)
2月	ビニールを考える	(1時間)
	ロウソクで癒される(アロマキャンドルを作る)	(2時間)
	学習の発表・準備	(1時間)
3月	学習の発表・準備	(3時間)

第2学年では、1学期はクラス単位で自分未来史や自己PRを作成する。2、3学期は、自らの興味・関心に応じた課題を選択し、自主的な学習活動を行う。

なお、本課題は、総合的な学習の時間の実施予定課題を計画した。

イ 研究内容

授業の感想を書かせることにより、自分の考えを表現する力を育成することもねらいの一つであるが、中学までに経験したことのある実験などを題材とした体験的な学習を通して、材料の分析や実験方法の検討など今までの考察より深い考察を行うことで、課題解決力を養う。数学と理科とを関連付け、各教科への学習意欲の向上を目指す。

また、各回で理工系学科の紹介や理系の職業の紹介を行うなど、理系に興味をもたせ、卒業後の進路選択のきっかけとするねらいもある。

ウ 検証授業の計画

(ア) 授業実施計画

対象 第2学年

実施 平成16年9月8日(水) 第1校時

場所 普通教室

本時の学習 「折り紙を科学する」

本時のねらい

既習の学習内容である指数関数の知識を活用して、折り紙を折る作業を通し、折った回数(x)と三角形の面の数(y)の関係が $y = 2^x$ の関係になっていることを確認し、指数関数についての興味や理解を深める。また、折り紙で鶴を折ることを口ばしの位置を決定してから折り始めるという条件をつけることにより、想像力をもって作業に望むことから、空間的なイメージや発想力を養う。

折り鶴という身近な教材で数学を体験することにより、数学に興味をもたせる。また、授業の感想など自己評価させることで、自分の考えを表現する力を育成する。

資料及び準備 折り紙等

授業展開

	学習の内容	予想される生徒の学習活動	教師の支援	評価
導入 10分	指数関数の内容を確認する。	わからない生徒は友達と一緒に考え、質問に答える。	指数関数の性質について、質問する。	積極的に授業に参加しているか。(関心・意欲・態度)
	指数関数のグラフについて考える。	$y = 2^x$ のグラフを思い浮かべ、指数関数とはどのようなものかを想像する。	具体的な値を提示しながら、生徒の指数関数についての想像を支援する。 $y = 2^x$ のグラフを板書する。	静かに説明を聞くことができるか。(関心・意欲・態度)
	指数関数とはどのようなものかを考える。	指数関数の性質について、確認する。	指数関数の性質を説明する。 $a^m \times a^n = a^{m+n}$ $a^m \div a^n = a^{m-n}$	
展開1 15分	折り紙を半分また半分と三角形に折っていく、作業の流れを確認する。	作業についての説明を聞き、理解する。	作業手順を説明する。机間指導により、作業の手順を理解しているか確認する。	集中して説明を聞くことができるか。(関心・意欲・態度)
	折り紙を折り、折った回数と折った面の関係を指数関数 $y = 2^x$ へ発展させる。	単純な作業であるが、折り方を間違える可能性がある。私語をしていて、説明を聞かない。	折る手順を間違えていないか確認する。わからない生徒に個別に説明する。	正確に作業を進め、面の数を想像できるか。(思考・判断)
	$y = 2^x$ のグラフとの関係を確認する。	説明をしている間も作業を続けている可能性がある。	作業を中断し、私語を止め静かに説明を聞かせる。面の数と 2^x の関係を樹形図で説明する。	集中して説明を聞くことができるか。(関心・意欲・態度)
展開2 7分	折り紙を折り、折った回数と折った面の関係を調べる。	単純な作業であるが、折り方を間違える可能性がある。勝手に作業を進める場合がある。	折り方が複雑なので、折り方、面の数の想像を支援する。面の数を指数関数で表す。勝手に作業を進めないよう注意する。	正確に作業を進め、面の数を想像できるか。(思考・判断)
展開3 10分	口ばしの位置を決めてから鶴を折り、空間的な感覚をつかむ。	作業についての説明を聞き、作業を行う。	何度も失敗し、口ばしの位置がわからない生徒に支援する。鶴の折り方がわからない生徒に、鶴の折り方を教える。	何度も間違えることが予想されるが、最後まで自分で考えることができるか。(技能・表現)(思考・判断)
まとめ 8分	感想の記入。	感想を記入する。	感想は必ず書くことを繰り返し伝える。	自分の考えを表現することができるか。(技能・表現)

検証授業の考察

(生徒の感想)

- ・「ふつうの授業より分かりやすく楽しかった。途中で分からなくなったけど、最終的には分かったから楽しかった。」
- ・「鶴を折って勉強したのがすごく楽しかったです。また、やりたいなあーと思いました。普通の授業も大切だけど、こういう授業もいい。」
- ・「折り紙で三角形が何個できるかやった。何個できるか全然分からなかったけど、教えてもらってなんとなく分かった。鶴を折った時、口ばしがどこにくるか予想するのは時間がかかったし、すごく難しかった。でも、勉強になったし、すごく楽しかったです。」

このように、普段の授業より楽しく積極的に授業に参加している生徒が多かった。

生徒の自己評価 (数値は%表示)

(自己評価の分析)

本時は、学習意欲や積極性の面で活発な傾向のあるクラスAとそうでないクラスBの2クラスで実施した。右の表の自己評価の数値は、2クラスの合計である。

質 問	はい	いいえ	どちらでもない
1. 自分から進んで学習に取り組みましたか	83	17	
2. 自分の考えをまとめられましたか	58	42	
3. 友達の意見は参考になりましたか	71	29	
4. テーマにそって、いくつかの学習方法を考えることができましたか	63	37	
5. 理系(数学や理科など)に興味をもつことができましたか	48	52	
6. 理系の職業に就きたいと思いましたか	0	81	19

クラスBにおいては、質問1の「はい」の割合は81%、質問3の「はい」の割合は67%、質問4の「はい」の割合は

62%と高い数値であった。他の質問も「はい」の割合は50%前後であり、普段の授業では消極的な生徒も、今回の授業には積極的に取り組んでいたことがわかる。他の生徒とも相談しながら課題解決に努めた生徒も多い。このようなことから、体験的な学習は生徒の学習意欲を引き出す手段として効果的な学習方法であると思われる。

クラスAにおいては、質問1~6すべてにおいて「はい」の割合が100%に近い。この結果からもわかるように、本校の課題としては、学習意欲や習熟の程度に差がある生徒への一斉指導をさらに工夫する必要がある。現在も実施しているが、教科の特性を考え、習熟度別授業や少人数クラスを積極的に実施し、生徒の現状にあった授業展開が重要である。

授業中に行う学習課題については、発展的な内容のものを十分準備し、学習課題が早く終わった生徒も時間をもてあますことのないよう配慮することで、意欲的な生徒にも、もっと効果的な授業になると思われる。

数学に興味をもった生徒が半数であり、今回の授業であらためて指数関数を理解した生徒もいた。指数関数は1学期に学習した内容であるので、今回の授業をきっかけに、授業に積極的に取り組むようになったかを判断できなかった。今回の授業を1学期に実施していれば、授業への意欲を増すことができたのではないかと思われる。

(5) 考察

ア 成果

- ・鶴のくちばしを決定してから鶴を折る作業については、全員が考えながら作業に取り組んでいた。間違えてもあきらめず、考え直しもう一度取り組んでいる生徒が多かった。正解すると喜び、成就感を味わっている様子がうかがえた。
- ・感想の発表などから自分とは違う考えがあることを知り、物事に対する考え方の幅が広がったと思われる。

イ 今後の課題

- ・数学の授業に消極的な生徒も積極的に作業を行っていたので、数学の時間も積極的に授業に取り組めるよう、数学や理科の授業内容に関連した生徒の生活に身近な課題等を扱うことも大切である。
- ・生徒の学習内容の習熟の程度に合わせ、適切な題材等を更に工夫する必要がある。
- ・勝手に作業を進めてしまう生徒や鶴の折り方がわからない生徒がいるので、折り紙を配るタイミングなど、事前の指導を徹底すべきであった。
- ・理系の職業に就きたいと思うかという質問は、[いいえ・どちらでもない]が多いが、その理由としては、理系の職業は何があるのかわからない、計算が苦手だから、難しそうだから等の理由であった。職業調べや自分の適性等について、考える時間が少ないので、自分の将来の考察を十分行えるような3年間を見通した計画を検討すべきである。
- ・総合的な学習の時間は、評価をするが、評価は付けない。このような時間の特性から、意欲的に授業に参加する生徒とそうでない生徒にわかれてしまう。現在行われている課題は、担当者が設定した課題が多いこともその原因の1つであろう。生徒が主体的に学ぶことのできる課題を積極的に導入することや3年間を通した小論文指導など、自己実現を図れるための3年間を見通した指導計画を再度検討すべきである。

実践事例2 テーマ「学習への意欲と自信をもたせる指導の実践」

(1) テーマ設定の理由

本実践では、自己の在り方生き方を考える態度や能力を育成するために、生徒が主体的に取り組む学習を通して自己理解を深めるとともに他者の考えを知ることによって「自分ならどうするか」と考える経験を積み重ねていくことを目指した。

実践に先立ち、授業に関するアンケートを実施した。集計結果より、自分でテーマを決めて調べるといった主体的な学習により「考える力」「問題を解決する力」が付くと考えている生徒が多いことが分かった。しかしながら、自分が調べたことをまとめてレポートを書くことや発表することに自信がもてず、やる気をもてないでいることも明らかとなった。

そこで、体験 調査 まとめ 発表という学習サイクルと生徒の主体的な活動を段階的に増やしていく学習によって興味・関心・意欲を喚起し、自信をもたせることができると考え、生徒が興味・関心をもちやすい食物に関する授業実践を行った。

授業に関するアンケート							
次の質問にあてはまる授業の方法をA～Fから教えてください							
(複数回答可)							
Q1	やる気ができるのはどの授業ですか						
Q2	やる気にならないのはどの授業ですか						
Q3	自信をもって取り組めるのはどの授業ですか						
Q4	取り組む自信がないのはどの授業ですか						
Q5	学習内容について理解が深まるのはどの授業だと思いますか						
Q6	考える力がつくのはどの授業だと思いますか						
Q7	問題を解決する力がつくのはどの授業だと思いますか						
Q8	人とうまくコミュニケーションを図る力がつくのはどの授業だと思いますか						
	A	B	C	D	E	F	なし
Q1	0	5	4	0	1	0	0
Q2	1	0	1	2	3	6	0
Q3	0	2	3	0	2	0	1
Q4	0	0	1	4	3	6	0
Q5	3	2	4	2	1	1	1
Q6	1	2	2	6	3	1	1
Q7	0	0	0	6	3	1	1
Q8	1	0	5	1	0	3	1

授業の方法

A 先生の話聞く
 B ビデオをみる
 C 実験・実習や作業をする
 D 自分でテーマを決めて調べる
 E レポートを書く
 F 発表をする

* ビデオを見る学習には意欲をもっている

* 実験や実習については取り組む意欲と自信をもっている

* 調べ学習やレポート作成、発表については取り組む意欲と自信をもてない

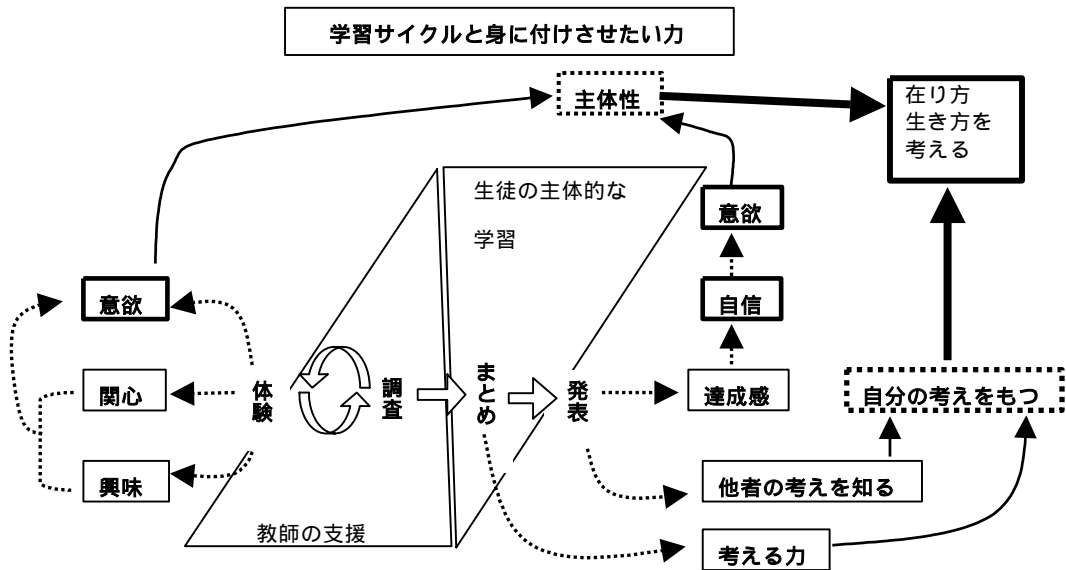
* C,Dのような自ら取り組む授業によって学習内容への理解が深まり、考える力や問題解決能力、コミュニケーション能力が身に付くと考えている

(2) 研究のねらい

体験 調査 まとめ 発表という学習サイクルと生徒の主体的な学習を段階的に指導支援することにより生徒の興味・関心をひきだし、達成感を味わうことにより自信や新たな意欲をもたせ、主体性を身に付けさせることをねらいとする。

さらに、自分の考えを発表するとともに、他者の考え方を知り自分の考えを確認すること

により、自らの在り方生き方を考えさせることを目指す。



(3) 研究仮説

- ア 体験 調査 まとめ 発表という学習サイクルによって、生徒が主体的に学習に取りくむようになるであろう。
- イ 調査やまとめ、発表の見本を示し支援することで、生徒が発表をやりとげ、達成感を味わうことができるであろう。

(4) 指導事例

ア 授業計画

課題名「食を通して自分の生活や社会を見つめる」

対象生徒 第3学年

本課題は、来年度、総合的な学習の時間を課題選択制で行う場合に課題の一つとして活用できるように計画、実践した。そして、計画を作成する際、学習に対する興味・関心を高めるために導入部として体験的な学習を取り入れた。

しかし、ただ体験するのみで終わることなく、生活や社会に結びつくような『栄養素・調理と環境・農作物の栽培・食文化』という4つの学習のテーマを設定し、毎時間の授業がそれぞれのテーマに沿って「体験 調査 まとめ 発表」という学習サイクルに沿って有機的に関連するように計画をした。

さらに、一年間の学習のまとめとして4つのテーマを超えて興味・関心をもった事柄や疑問点、それに関する調理方法などについて調べ「食に関するレポート」を作成し、各自の調査に基づいたテーマで考察や実習を行う。ワークシート形式からテーマを設定し調査する課題まで段階的に学習をすすめることによりまとめる能力を育成する。

イ 研究内容

- (ア) 学習テーマ 「農作物の栽培から生活や社会を見つめる」
家庭科や理科等と関連付け、発表することなどを通して、学習意欲を高める。
- (イ) 単元のねらい

学習に主体的に取り組む。

農作物を栽培することで食品に興味をもち、普段食べているものについて考える。

野菜の栄養素、原産地、調理法を書籍で調査する。

野菜の主な生産地、自給率など疑問をもった課題について書籍、新聞、インターネットを使い調査する。

野菜の調理法を知り実践する。

学んだこと、調べたことや自分の考えをまとめ、自分の言葉で発表する。

他者の意見を聞き、良いところを学ぶ。



(ウ) 各教科との関連

各教科の関連	学習以外等	生徒の活動	指導について	備考
理科	知る	栽培する野菜について知る	栽培する野菜の種類・収穫時期について説明する	枝豆の種、トマト、きゅうり、なす、稲の苗
	体験	土・腐葉土を用意する 野菜・稲を植える	作業について説明する 役割分担するように促す *土を運ぶ *プラスチックケースに水はけ穴を開ける *種、苗を植える	プラスチックケース スコップ、ビニール袋
	調査	野菜・稲の原産地、特徴、栄養価、調理方法を調査	レポートの用紙を配布する 調べ方が分からない生徒に助言する *食品成分表の見方 *目次の見方	食品成分表 食品・料理の本 レポートの用紙
	観察	育ち具合を観察する	各自で観察するように指示する *花の色、形や実のなり方、成長の速度	
家庭科	体験	野菜を使った調理実習	料理が完成したらデジカメで撮影する	レシピのプリント
総合的な学習の時間	まとめ	野菜を栽培して分かったこと、気づいたことや調査したこと等を画用紙 3～4 枚の紙芝居(ボード)形式でまとめる 発表台本を作る	ボード・発表台本の見本を用意して発表の実演をする 発表台本の見本を配布する 資料のコピーをする	レポートの用紙 発表台本の見本 画用紙、色鉛筆 色ペン、はさみ等
	発表	一人2分で発表する 発表を聞いて記録をとる		記録用紙
	振り返り	自己評価をする		自己評価表

(エ) 評価の観点

作業や調理実習に主体的に取り組んだか。

分からないことを自分で調べて解決できたか。

野菜の基本的な調理方法が身に付いたか。

自分の考えをまとめ、自分の言葉で発表できたか。

他者の意見を理解し、良いところを学ぼうとしたか。

農作物への理解が深まったか。



ウ 検証授業の計画

(ア) 授業実施計画

対象 第3学年

実施 平成16年10月25日(月)第5・6校時

場所 被服室

本時の学習 「農作物の栽培から生活や社会を見つめる」の発表準備と発表

本時のねらい

- ・発表ボードや発表台本を作成することにより、農作物の栽培の学習をふりかえるとともに自分の考えや調査したことなどをまとめ発表する力を身に付ける。
- ・人前での発表を経験することにより自分の考えをわかりやすく伝える工夫をし、達成感を味わう。
- ・人の発表に興味・関心をもって聞き、新たなことを学ぼうとする態度を身に付ける。

資料及び準備

〔生徒が用意するもの〕前時までのプリント 画用紙 各自で収集した資料

〔教師が用意するもの〕はさみ のり 色鉛筆 発表記録用紙 発表ボード見本等

授業展開

	学習の内容	生徒の学習活動	教師の支援	評価
導入	進捗の確認	前回までの進捗を確認する	発表ボードの下書きまで終わっているか確認する	自分の進捗を確認できたか
	作業の確認	今日の作業を確認する	発表ボード、台本を完成させるように指示する	今日やることがわかったか
展開	発表ボード仕上げ	色をぬる、写真や資料を貼るなどして発表ボードを完成させる 時間内に終わらない場合がある	完成の目標時刻を知らせ板書する 終わっていない生徒も先に台本を書くように指示する	計画的に作業しているか 自分の考えをまとめてられたか 作業に意欲的に取り組んでいるか
	発表台本の作成	ボードをもとにして発表台本を書く		作業に意欲的に取り組んでいるか
	リハーサル	各自でリハーサルをする	台本を見ながら発表してもよいことを伝える	リハーサルに取り組んでいるか
	発表順を決める	発表の順番を決める	立候補をつのる 発表順を板書する	積極的に立候補したか
	発表	1人2分で発表する 聞いている生徒は記録用紙に記入する	記録用紙を配布し記入の仕方を説明する	恥ずかしがらずに発表できるか 静かに発表を聞いているか 記録用紙に記入しているか
まとめ	記録用紙の回収 自己評価・感想を記入	記録用紙の評価票を集める 自己評価・感想を書く	集めた評価票を発表者に配る	自分の取り組みを振り返ることができるか

発表ボードの一例



検証授業の考察

生徒の自己評価

質問	はい	いいえ	授業の感想、意見（自由記述） <ul style="list-style-type: none"> ・発表をがんばれたと思う ・とても緊張しました ・意外とみんな調べてあってすごいなと思いました ・しらべるのは大変だったけどみんなでがんばったからとっても楽しかった ・野菜のすばらしさがわかった ・楽しかった
1 自分から進んで学習に取り組めましたか	55%	44%	
2 計画的に学習をすすめることができましたか	66%	33%	
3 分からないことを調べて解決できましたか	88%	11%	
4 必要な情報を選ぶことができましたか	88%	11%	
5 自分の考えをまとめることができましたか	66%	33%	
6 自分の考えを分かりやすく発表できましたか	77%	22%	
7 友達の意見は参考になりましたか	100%	0%	

(ア) 成果

- ・意欲的に取り組んでいた生徒は発表内容が濃く、きちんとまとめる力が付いていた。
- ・発表記録用紙を記入させたことにより、他の生徒の発表をきちんと聞き、内容を把握することができたので生徒同士の学び合いができた。

(イ) 課題

- ・生徒によっては、発表の内容を自分の言葉でまとめることが十分にはできなかった。
- ・発表内容が調査したことのみで、野菜を栽培して気づいたこと、わかったことが発表に生かされなかった。

(5) 考察

理科において、農作物を栽培している段階ではあまり興味をもたず、収穫し試食する段階になると興味をもち始めたので、最初の動機付けに工夫が必要であった。本校は周囲に畑が多いので、見学に行くなどの近隣との連携を図っていきたい。また、栽培中も写真を掲示する、栽培担当を決める、観察記録をつけさせるなどして興味・関心をもたせるようにしていきたい。

自己評価項目1で、自分から進んで学習に取り組めたと答えた生徒は55%であった。今回の発表が初めてであったので、授業時間外に進度を確認したり、調査する書籍について助言をしたりするなど、教師のかかわりが多かったことにより、生徒が自分で取り組んだという実感が薄かった。

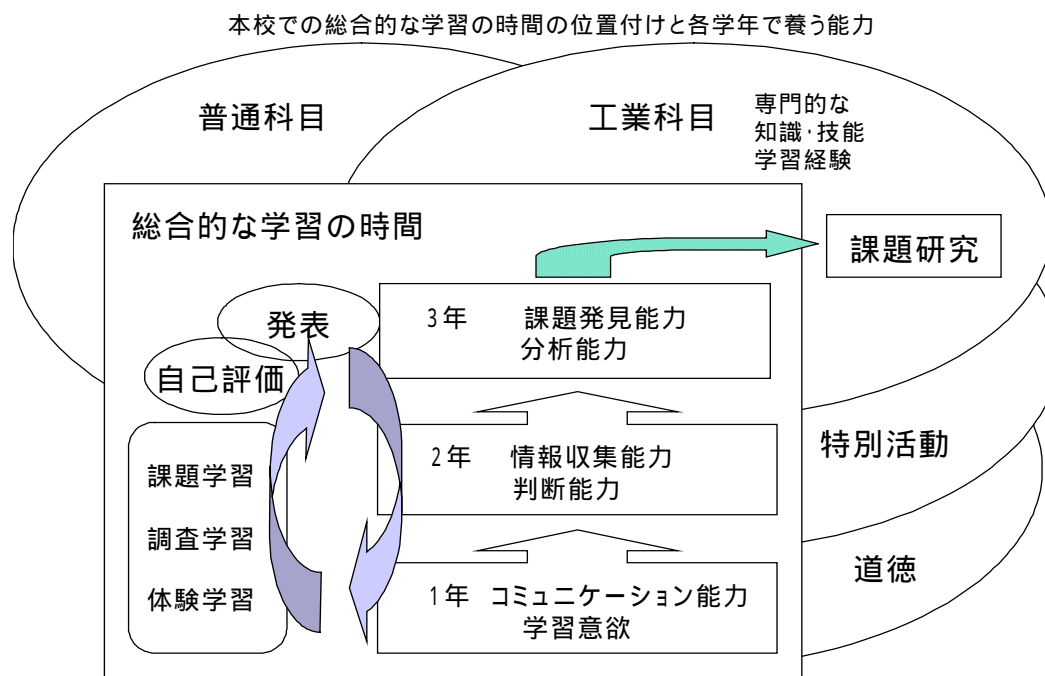
調査学習やレポート作成、発表については、授業前は「まとめ方がわからない」「人前で話すのは苦手」などの不安を感じ、やりたくないという生徒が多かった。授業後の自己評価では、項目3,4,7,9で割合が高く、緊張したが頑張れた、楽しかったという感想からもわかるように、達成感を味わい自信をもてるようになった。

今後、学習サイクルを繰り返していくとともに、取材やアンケートなどの調査方法を取り入れ、生徒が主体的に学習を進めていけるようにしていきたい。

実践事例3 テーマ「学習意欲の喚起とコミュニケーション能力の育成
～ものづくりと発表体験を重視した指導～」

(1) テーマ設定の理由

工業科では、総合的な学習の時間は、工業科目「課題研究」での代替が可能のため、これまで本校の教育課程には置かれなかった。「課題研究」は専門的な知識と技術の深化、総合化が大きな目標となり、工業科目学習の総括としての色彩が強いため最高学年に置くことになっている。しかし、定時制課程では生徒の興味・関心が多様化しており、課題学習等の経験も十分とは言えない生徒が多い。そのため、本校では低学年から課題解決の基盤となる学習意欲とコミュニケーション能力を高める目的で総合的な学習の時間を1～3学年に各1単位で位置付けた。



総合的な学習の時間ではぐくまれる学習意欲やコミュニケーション能力は、「課題研究」等で活用することが期待される。学習計画では、生徒たちの学習経験を補いながら、総合的な課題解決能力を育てるために、生徒の発達段階に応じて上の図のように目標設定をしている。第1学年では、一人一人に学習意欲を喚起すること及びコミュニケーション能力を高めることを目標としている。また、第2学年ではこの経験を生かし、生徒が自ら課題についての調査を進め、情報収集する能力及び判断力を高めることを中心とした学習を予定している。さらに、第3学年では課題発見能力と問題の分析能力を高める学習を行い、第4学年の「課題研究」につなげる計画である。

以上の学習計画を踏まえ、第1学年の目標を達成するための手だてとして、「学習意欲の喚起とコミュニケーション能力の育成」をテーマとし、ものづくりと発表体験を重視した授業を通して、興味・関心の多様化した生徒たちへの具体的な指導実践を試みた。

(2) 研究のねらい

定時制第1学年を対象とした授業研究である。しかし、本校1年生を対象に実施したアンケートによると、中学校での総合的な学習の時間の学習活動の内容を忘れていたり、理解が十分でなかったりするために回答できなかった生徒が48%と多く、主体的に取り組む課題解決学習の経験が少ない生徒が多い。

このため、課題学習の方法をモデルとして示す必要がある。授業では、初歩的なものづくり題材を利用した体験的な学習を行い、生徒に興味・関心を喚起させる。また、技術的な課題を与えることで、課題の発見・探究・解決の方法を学ばせる。さらに、単元の最後に設定した発表会に向けた準備作業を通して、学習内容を振り返るとともに、プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を育てる。

(3) 研究仮説

- ア ものづくり・発表等の明確な目的をもてば、生徒は意欲的に授業に取り組むであろう。
- イ 製作や調整の過程及び発表準備での意見交換が生徒の学び合いとなり、コミュニケーション能力を高めるであろう。

(4) 指導事例

ア 授業計画

第1学年では、体験的な学習を中心に授業を構成し、課題学習の方法を体験する。

イ 研究内容

第1学年 (1単位)		
時期	時数	授業内容
4月～5月	7時間	「総合」オリエンテーション 日常の経済活動・社会規範等の学習・討議
6月～10月	4時間 8時間	図書館・インターネットを利用した調査学習 よく飛ぶ紙飛行機の製作(体験的な学習)及び発表
11月～1月	12時間	小麦粉を使った食品作り(体験的な学習)及び発表
2月～3月	4時間	類型(コース)に関わる話題・課題探し

(ア) 学習テーマ

「ものづくり体験から学ぶ」 ～よく飛ぶ紙飛行機の製作～

(イ) 単元のねらい

工作紙飛行機の製作という初歩的なものづくりを題材とし、発表会を目標とした学習を通して、学習意欲を喚起するとともに、コミュニケーション能力を高める。

紙飛行機の製作過程で明確な目的をもたせ、生徒の興味・関心を喚起する。

作成した紙飛行機の飛び方の分析と、より安定した飛行のための調整を繰り返すことで、技術的な思考と課題解決の方法を体験させる。

揚力等の技術的説明と工作の経験から、よく飛ぶ紙飛行機の要件を整理させる。

自作の紙飛行機について特徴や工夫した点をまとめる。十分な準備時間を確保し、生徒どうしのリハーサルの後、2分程度の発表でプレゼンテーション体験をさせる。

生徒同士が競ったり意見を交わしたりする中でコミュニケーション能力を高める。

発表会後に自己評価を実施し、学習活動を振り返ることにより、自己理解を深める。

ウ 検証授業の計画

(ア) 授業実施計画

よく飛ぶ紙飛行機の製作(8時間)

項目	時間数	内容	留意点
導入 製作	3時間	* B5用紙で折り紙飛行機を作り飛ばす。 * 工作紙飛行機を選び製作する。	* あまり制限は加えず、生徒の関心や意欲を高める。 * 工作の難易度は生徒の技能を考慮して選択させる。 * 正確に作るための工夫を促す。 * 生徒間の学び合いを促し、コミュニケーションを図る。 * 発表会を行うことを知らせる。
分析 調整	1時間	* 工作紙飛行機を飛ばし、安定して飛行するよう調整する。 * 広い空間で紙飛行機を飛ばし、飛行距離を競う。	* 指導教員も1機準備し、飛ばし方や調整方法について具体的に例示する。 * 技術的な説明は講義で行う。ここでは体験的・経験的に学ぶ。
講義 考察	1時間	* 飛行機各部の働きや重心位置・揚力について説明し、プリントに記入させる。また、自作機での検証をする。	* 講義内容をまとめるプリントを準備する。 * 投げ方による飛び方の違いについても解説する。 * スプーンの実験・折り紙飛行機と工作紙飛行機の比較などから、理論の展開を試みる。
発表 準備	2時間 (本時)	* 発表のための準備をする。模造紙やパネルなど、発表形式は自由とする。	* 発表会の詳細(時間・発表方法など)を知らせる。 * ポスターや広告を題材としてプレゼンテーションの意義や楽しさを知らせ、発表への意欲をもたせる。 * 生徒一人一人の技能や理解に応じた発表ができるよう、個別に対応する。
発表 自己評価	1時間	* 持ち時間2分間の発表を行なう。 * アンケート形式で自己評価をする。	* 工作飛行機の完成度や性能よりも、生徒の学習意欲や態度に重点を置いた自己評価票を準備する。

(イ) 評価の観点

授業への参加意欲があったか(意欲)

工作や調整作業で学び合いながら工夫ができたか(意欲・知力)

飛行機の技術的な要素を認識できたか(技能)

発表でのコミュニケーション・プレゼンテーション能力(技能・認知)

学習の目的にそった自己評価ができたか(知力・認知)

(ウ) 検証授業

対象 第1学年

実施 平成16年10月27日(水) 第2・3校時

場所 2階教室

本時の学習 「よく飛ぶ紙飛行機の製作」のうち、6・7時間目の発表準備

本時のねらい

- 1 発表会を明確な目標とし、学習への動機付けとする。
- 2 発表例を示し、プレゼンテーションの意義や楽しさを知らせ、発表への意欲をもたせる。
- 3 これまでの授業で体験的に身に付けた知識・技術・経験、講義による学習内容を整理し、発表会の準備をする。発表原稿を考え、発表資料をまとめる作業を通して、これまでの学習を振り返り、内容の関連付けを強める。

資料および準備

前時で使用した「飛行の原理」プリント、組立紙飛行機、学習ファイル、教員製作の紙飛行機、ポスター、広告、模造紙、色画用紙、ハサミ、マジックペン等

授業展開

1 時間目の展開

	学習の内容	予想される 生徒の学習活動	教師の支援	評価
導入 5分	プリントにより、飛行の原理などを確認する。 発表会の詳細(持ち時間発表方法)を確認する。	前回の授業で使ったプリントで、飛行の原理を確認する。	学習ファイル・前回のプリント・生徒製作の紙飛行機の配布。 プリントについて、良い点を紹介する。 発表時間は2分であることを伝える。	飛行の原理をプリントで確認する。[思考] 発表に意欲をもつ。 [関心・意欲]
展開 15分	ポスターや広告を見て、印象に残る部分について、2~3人の意見を聞く。 教員製作の紙飛行機について、担当教員が話し方や資料を用いた説明の方法を示す。 教員の説明についての感想を発表する。	ポスターや広告を見て、プレゼンテーションについて関心をもつ。 教員の説明を参考とし、自分のプレゼンのイメージを考える。	ポスター・広告はプレゼンテーションとして印象的なものを選ぶ。 プレゼン資料は、言葉による説明だけではなく、メッセージを伝える効果的な手段として例示する。 教師の説明では、パネル(フリップ)を4枚使用し、話し方や資料の提示などに重点を置く。 教師の説明用メモを参考として配る。 生徒が考える時間を確保する。	プレゼンテーションとしてのポスターや教師の説明を観察する。 [関心・思考] ポスターや教師の説明を分析する。[判断] ポスターや教師の説明について、自分の意見・感想をもてる。 [技能・理解] 発表会の目的を理解する。[理解]
展開 23分	発表用のレジюмеを作成する。 絵コンテなども交えてもよい。 説明原稿を作成する。	配布した上質紙に、発表の具体的なイメージを書く。	個々の生徒の活動状況を見回り、適宜支援をする。 作業の進捗が速く、内容が充実しているレジюмеは、他の生徒にも紹介する。 レジюмеが完成した生徒には、発表用資料の作成を指示する。 授業に取り組んでいても発表準備が進まない生徒には、発表の簡素化を指示し、不安をやわらげる。	発表原稿・レジюмеの作成に意欲的に取り組む。[関心・意欲] 作品の特徴をまとめられる。[思考・判断] 発表の具体的なイメージを構成できる。 [技能・表現]
まとめ 2分	次時の予定を確認する。		次の1時間で発表用資料等を完成させることを伝える。	

2 時間目の展開

	学習の内容	予想される 生徒の学習活動	教師の支援	評価
導入 3分	発表会の進め方を再確認する。	作業状況の確認をする。	生徒が作成したレジюмеについて、良い点を紹介し、評価する。	発表会に意欲をもつ。 [関心・意欲]
展開 30分	教員製作の紙飛行機について、今回は、プレゼンテーションに動的な要素を多く含んだ手法で発表する。 レジюмеをもとに、発表用資料の作成を進める。	教員の説明を見る。 発表方法について、より具体的なイメージをつかむ。 発表準備ができた生徒は、リハーサルをする。	意欲的な作品・資料は、全員に示す。 コミュニケーションに重点をおいた指導・助言を与える。	教師の説明に関心をもつ。[関心・理解] 発表の準備に意欲的に取り組む。 [意欲・態度] 教員や他の生徒の例を参考にできる。 [技能・表現]
まとめ 12分	生徒が、互いに発表のリハーサルを行なう。 飛行機・資料・ファイル等を回収する。	最低1回は、リハーサルを行なう。	生徒同士でリハーサルが行えるよう、一人一人に働き掛ける。 生徒間のコミュニケーションを図る。	他の生徒と協力してリハーサルに取り組む。 [関心・表現] 片付けに協力的である。 [意欲・態度]

検証授業の考察

成果

- ・教師が発表の方法を具体的に示すことで、生徒は、自分の発表をイメージすることができた。
- ・教師の発表用メモを配ることで、発表に向けての準備や手順を伝えることができた。
- ・会話が得意でない生徒も、発表原稿を作成することでリハーサルが行えた。
- ・一部の生徒がリハーサルを行うことで、授業の意欲が低い生徒も発表準備に取り組むようになった。

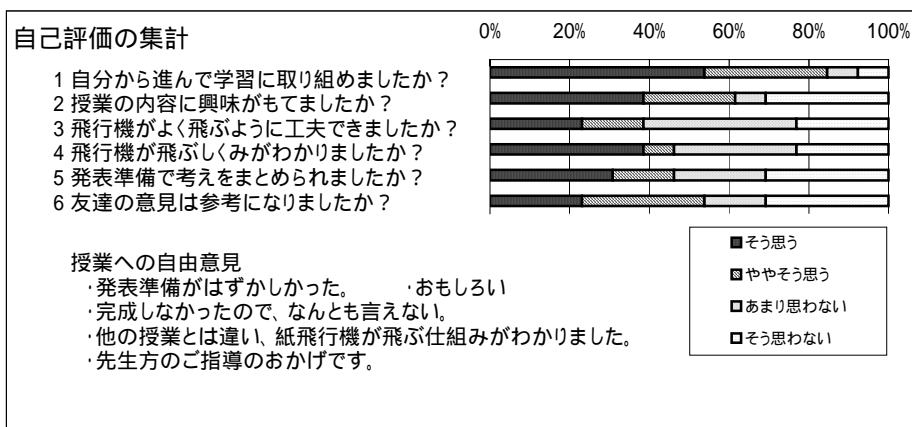
課題

- ・製作作業が遅れている生徒（4名）は、1時間目に発表準備を始められなかった。工作や調整の時間配分や作業が遅れている生徒のサポートにさらに留意するべきである。
- ・教師が生徒のリハーサル相手となる場合が多くあった。生徒同士が、リハーサルを見聞きし、相互評価する方法や姿勢について、あらかじめ示す必要がある。
- ・発表の内容をさらに高めるため、講義や調査学習で理解を深めておくべきである。

(5) 考察

発表会後に実施した自己評価の結果は次のとおりである。

自己評価項目2では60%以上の生徒が授業内容に興味をもてたと回答しており、項目1では80%以上の生徒が進んで学習に取り組んだと回答してい



る。また、多くの科目で授業に対する姿勢に問題があると指摘されている生徒の多くが、授業に主体的に取り組んでいた。以上の点から、生徒に学習意欲をもたせるという観点では、効果があったと判断する。

コミュニケーション能力に関しては、項目6で友達の意見が参考となったと回答した生徒は56%であり、これまでコミュニケーションをうまく図れなかった本校の1年生の回答としては、効果があったと判断できる。発表会の方法や発表内容に要求する項目の設定等を工夫するとともに、意見交換の機会を意図的に設定するなどして、生徒間のコミュニケーションをさらに促すことが課題である。

授業実践を通して、到達点としての目標を理解させ、そのために今何をすべきかを示せば、多くの生徒は意欲的に学習に取り組めることがわかった。また、体験的な学習での学び合いと発表は、生徒のコミュニケーション能力を高める。こうした学習活動や発表等の経験が繰り返されることで、生徒の学習意欲が高まり、コミュニケーション能力等が養われる授業を工夫したい。

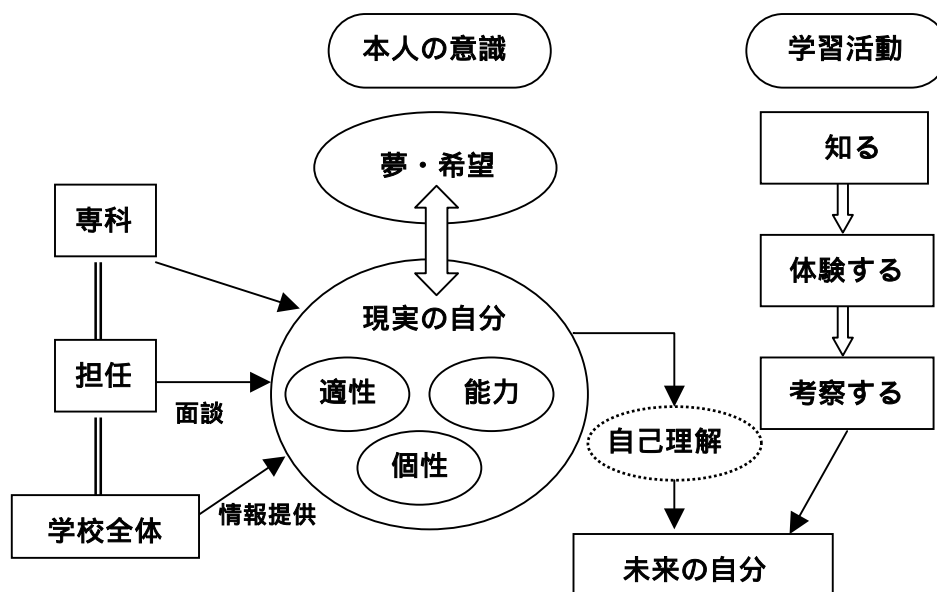
実践事例4 テーマ「自己理解に基づいた進路選択を促す指導の工夫
～ 専門高校における計画的な進路指導を通して ～」

(1) テーマ設定の理由

現在、生徒一人ひとりの能力や適性、興味・関心、進路希望等に合わせて学べるように、新しいタイプの都立高校づくりが進められている。

一方、学校の教育活動全体を通しての進路指導の在り方など教育の内容面で解決しなければならない課題もある。例えば、芸術系の学校を選んだ生徒の場合、専門学科の教員主導による芸術系4年制大学への進学指導や生徒の専門性を伸ばすことに重点が置かれがちである。結果として、一般大学や専門学校への進学希望者と、少数ではあるが就職希望者への対応が十分にはできていないのが現状である。

このような状況を踏まえ、生徒一人ひとりに対するきめの細かい指導を目指して、生徒が自己理解を図り、個性や適性等を生かして将来の進路を選択するなど、自己の在り方生き方を考えるための総合的な学習の時間における学習活動を計画的に実践していくことが必要である。各教科等と関連させ、進路指導部と連携するなど組織的に取り組むことが重要である。



(2) 研究のねらい

進路に関する情報収集と考察や発表などの学習活動を工夫して、生徒が自己の適性を知り、自己理解を深め、主体的に進路の選択をするなど自己の在り方生き方を考えるために必要な計画的な指導について研究する。また、記録を活用するなど面談での支援方法や、進路情報の学校全体での共有化と各教科等や校務分掌組織等との連携の在り方も研究する。

(3) 研究仮説

進路目標の明確化や面談など学習活動を工夫し、意図的・計画的、組織的な指導を行えば、生徒の自己理解が深まり、個性や適性等を生かした主体的な進路選択が可能となるであろう。

(4) 指導事例

ア 授業計画

年間指導計画を作成するにあたって、以下のことに配慮する。

専門及び専門以外の進学や就職希望など生徒の多様な進路に関して、生徒自らが関心を持ち、情報収集を行う資質・能力を育成する。そして、自己の特性や個性等を生かす進路を発見する力をはぐくむ。また、グループ毎の発表を重視し、自分の意見や考えをまとめ、伝達する能力や他者評価も含めて総合的に自己の適性について判断する能力をはぐくむ。

イ 研究内容

(ア) 指導体制の工夫

進路指導部との連携など組織的な指導体制

- ・専門学科以外の教員の経験や可能性を生徒一人一人の指導に生かし、教科や分掌との連携など学校全体の組織づくりを行う。
- ・進路希望調査を基に、希望する進路に関する情報を収集し、校内で提供・共有する。
- ・合格体験講話（講師招聘）・上級学校ガイダンスなどを設定する。
- ・芸術系上級学校に関する情報を提供する。個人面談を年間3回実施し、記録を活用するなど生徒一人一人の進路について支援する。また、校内研修や拡大学年会議等を設定し、情報交換を行う。

担任による支援体制

- ・ディスカッション用のプリント等にコメントを記入するなどの工夫を行う。
- ・進路指導部と情報交換を行う。

(イ) 学習活動の工夫

学習計画の工夫

- ・進路意識調査等を実施し、各自の希望進路を明確にする。
- ・希望進路が芸術系上級学校ではない場合、普通教科の授業や進路情報の過不足など課題を明確にし、生徒の自ら学ぶ姿勢をはぐくみ、進路実現に向けた学習を行う。
- ・進路ガイダンス、合格体験講話、調べ学習等により情報収集を行う。
- ・自分未来史の作成（3段階）及び発表を行う。

記録の活用

生徒 前期は、毎回、レポートを作成する。ポートフォリオ形式で保管する。

後期は、自分未来史の作成と発表を行う。

教員 レポートの添削・指導、個別面談の記録等。

(ウ) 評価の工夫

生徒による自己評価及び相互評価

- ・積極的に情報収集を行い、他者の意見も参考に適性等に合った進路選択ができる。
- ・ポートフォリオの記録等から自分を振り返って、自己理解を深める。

教員に対する授業評価

- ・生徒が意欲的に取り組み、自己理解を促す指導を行う。
- ・生徒の個性等を生かす指導や教員間での情報の共有を行う。

(工) 進路指導部と総合的な学習の時間との連携による年間計画(第2学年美術科)

	生徒			総合的な学習の時間		特別活動
	学習活動	自己評価	流れ	専科	普通科	進路指導
4月	進路ガイダンス 進路希望調査(第1回目)	進路に関して明確なビジョンをもっているか	レポート作成 進路情報の収集	面談 ← 志望方面の情報収集		卒業生の進学就職状況のガイダンス
5月	合格体験講話	感想文作成				進路に即した講師の選出
6月	芸術系上級学校とその他の上級学校進学者による校内での講話 講演会 アトリエ訪問 大学説明会	学校生活の情報などを収集できたか 視点を広げられたか 各大学のシラバス等も知ることができたか	職種等の理解と把握	進路に関して拡大会年・校内研修		礼状作成等のマナー指導 美術系大学見学会
				専門性の仕事をしている人の紹介・割当 面談		
7月	職業についての調べ学習 前期のまとめ	希望進路が自分に適しているか		生徒の感性や希望にそった進路選択の相談	就職希望者への指導	
9月	進路希望調査(第2回目) 広い範囲から選択		自己理解	発表・自己評価カードから適性等にそった進路選択についてアドバイスをを行う		
10月	第1回自分未来史未来版	現在の自己理解				
11月	自分未来史近未来版		主体的な進路の選択	自己の体験を語る		
12月	発表を聞いて感想文作成 進路選択の違い等個々の可能性を探る 第2回自分未来史未来版	相互評価カードから自分に対する客観的な視点をもつ		大学進学志望者指導	専門以外の志望者指導	
1月	自分の将来の職業をより具体的に意識するためにシミュレーションする			専門大学進学希望者	専門系以外の志望者指導	
2月	希望職種に各自が就職した設定でディスカッションをする	他者評価より自己の新しい個性を知る				
3月	第3回自分未来史総合未来版の発表。自分未来史を自由な形でプレゼンテーションする。年間を通しての感想文作成(自己評価も兼ねる)		まとめ	美術系上級学校志望者の指導	専門系大学以外の志望者の指導	

ウ 検証授業の計画

(ア) 授業実施計画

対象 第2学年

実施 平成17年2月10日(木)5・6時限目

場所 美術科教室

本時の学習 「自分の近未来について考察する」 ～自分未来史作成 未来総合版～
本時のねらい

主体的に自己の適性等を知り、広い視野から将来の自分の可能性を探る。

なお、全体の単元構成は、「自分未来史作成」と題し、近未来版(高校卒業後の数年間)、未来版(上級学校卒業後や就職後の数年間)、総合未来版(未来版以降の時期)の3段階で自分未来史を作成することによって、生徒が、将来の自分の進路を考察する。

資料及び準備 ディスカッション用の記入式プリント

授業展開

	学習活動の内容	生徒の学習活動	教師の支援	評価
導入 (10分)	今までの自分未来史作成の概略と本時の課題の確認。	ポートフォリオ形式の記録から将来の希望を確認する。	第2回の自分未来史の記録を返却する。 ディスカッションが効果的に行われるように指導する。	説明等を聞き、理解することができたか。
	シミュレーション用のプリント活用。	具体的に記入する。	シミュレーション用のプリントの配布と説明を行う。	意欲的に取り組めたか。
展開 (40分)	希望職種の調査と調整。 ディスカッションのグループ決定。	シミュレーション用のプリント等を活用して、ディスカッションの準備を行う。	グループ分けをスムーズに行う。	
休憩 (10分)	各グループ内でのディスカッション。 各グループの発表。 自分未来史総合未来版の作成。	希望職種についての情報を収集する。 希望職種は、自分にとって適切か考える。 発表内容や方法について模索する。 発表で自分の役割を実践する。	ディスカッションを促す。 発表方法(手書き・パソコン等)について、重点的に指導する。	希望職種についての情報から、自分の適性を考えることができたか。 分かりやすく発表することができたか。
展開 (35分)				
まとめ (15分)	3月の授業についての説明。		次回が最終発表になるので、情報収集や方向性の変更等の相談をすることを連絡する。 プリントを回収する。 (後日返却し、保管させる)	

評価カード（生徒用）

自分未来史作成 自己評価カード		年 科 番 氏名 _____
<p>後期は、自分未来史について学習しました。次の項目について学習での自己評価を行いましょ。</p> <p>(4.よくできた 3. まあできた 2. やや不足した 1. かなり不足した)</p>		
関 心 意 欲 態 度	高校卒業後の進路に対して関心をもちましたか 大学等上級学校などの情報収集に対して意欲的に取り組みましたか 将来希望する職業を詳しく知るのに主体的に取り組みましたか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
思 考 判 断	自分の長期的な展望や人生設計に関して真剣に考えましたか 自分に合った卒業後の進路を見つけることができましたか 自分に合った職業を見つけることができましたか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
技 能 表 現	将来の自分を自分未来史で表現できましたか 発表ではうまく伝える事ができましたか 自分未来史作成や発表において時間配分はうまくできましたか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
知 識 理 解	自分の専門とする分野における情報収集は充分でしたか 自分の専門外とする分野における情報収集は充分でしたか 自分の個性や特性は理解できましたか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
一番印象に残った事		
今後取り組みたい事		

(5) 考察

- ・ 美術科は、美術系大学への進学を前提としているが、個別面談等で各生徒の状況について把握していく必要がある。
- ・ 進路指導部等が5月に実力診断テストを実施した際、進路適性検査を行ったが、生徒が自分で適性を診断するものだった。生徒は他者評価を強く望んでいることが分かった。
- ・ 進路指導部と総合的な学習の時間の授業担当者との連携が必要である。
- ・ 総合的な学習の時間の授業担当者と担任との協力体制づくりが必要である。
- ・ 総合的な学習の時間と特別活動との連携に伴う教員の役割分担が必要である。

まとめ

総合的な学習の時間が、高等学校教育に本格導入されて2年目を迎えている。総合的な学習の時間は、従来の授業とは異なり、生徒個々の可能性を生かし、より多角的、総合的な視点で、生徒の学習活動に生かされることが求められている授業である。

しかし、学校においては、総合的な学習の時間をどう捉え、活用してよいのかまだ模索の段階であり、趣旨が理解され、生かされる必要がある。

今回の研究は、4つの授業テーマで行われたが、その実践事例もまだ授業として固定化されるには十分であるとは言えない。したがって、今回は、研究成果と共に提案型の研究事例を示すことにした。

本部会では、まず、部会内の各校で学習に関するアンケートを実施した。そして、研究主題『自己の在り方生き方を考える指導の実践』のもと、普通科、専門学科、芸術科の各校の生徒の実態などアンケート結果を分析し、総合的な学習の時間の学習活動として有効と思われる4つの授業テーマを設定して研究を進めた。その結果、4つの研究から次のような成果等を得た。

「体験的な学習から生徒の興味・関心を引き出す指導の実践」では、体験的な学習による学習意欲の向上、特に理系教科に対しての意欲向上をねらいとし、積極的に授業に取り組む生徒が増えた。また、発表などにより表現力や教養を深めることができた。職業紹介などの進路選択のきっかけづくりは今後も継続していきたい。

「学習への意欲と自信をもたせる指導の実践」では、調査やまとめ、発表に対して自信をもてない生徒が多かったが、体験から調査、まとめへと連続性をもたせたうえで発表を行うことで、成就感を味わい自信をもつことができた。また、発表記録用紙を記入させることで、ほかの生徒と学びあうこともできた。

一方、生徒が自ら学習に取り組んだという意識が薄いことが課題である。学習サイクルを繰り返していくことで、生徒が主体的に学習を進めていけるようにしたい。

「学習意欲の喚起とコミュニケーション能力の育成」では、学習の目的を明確にし、今何をすべきかを示すことで、多くの生徒が授業に主体的に取り組めた。また、体験的な学習での学び合いと発表により生徒のコミュニケーション能力は高まりつつある。

今後、発表会の方法や発表内容を工夫するとともに、意見交換の機会を意図的に設けることで、生徒間のコミュニケーションをさらに促していきたい。

「自己理解に基づいた進路選択を促す指導の工夫」では、自分未来史を作成し、生徒が主体的に進路選択を行うように支援するものである。また、学校全体の取り組み方として総合的な学習の時間と特別活動の相互関連を図ることによって、より充実した生徒指導の在り方を提案した。

上記のいずれの授業テーマにおいても、体験的な学習や発表などの学習活動が、生徒の主体的に学ぶ意欲等の育成に効果的であった。総合的な学習の時間におけるこれらの学習活動が、個々の生徒の適性等の自己理解にも有効であり、自己の在り方生き方を考えるきっかけになった。

総合的な学習の時間の充実のためには、教職員の共通理解や協力体制が不可欠であり、今後、各教科や特別活動等とより一層の連携を図るための研究の推進が必要である。

平成16年度 教育研究員名簿（ 総合的な学習の時間 ）

地区	学 校 名	氏 名
2	都立芸術高等学校	佐々木 智子
3	都立中野工業高等学校	水越 雅春
6	都立葛西南高等学校	青木 香
8	都立青梅東高等学校	大矢 聡美

世話人 副世話人

担当 東京都教職員研修センター統括指導主事 上山 敏
指導主事 佐藤 俊一

平成16年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録
平成16年度 第21号
(東京都教育委員会主要刊行物)

平成17年1月24日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14
電話番号 03-5434-1974

印刷会社名 鮮明堂印刷株式会社